

#編集後記 与える人が与えられる

息子夫婦が生まれて間もない孫を連れて初めて我が家に来て少し一服した時でした。笑顔の元日を襲った突然の揺れ。

我が家は大したことはありませんでしたが、被災された能登地方でも、うちのようにコロナ明け初めてのお正月を、家族で過ごそうと楽しみにされていた方は多かったです。その心情を思うと他人事とは思えません。長引く避難生活に体調を崩す被災者も多いと聞きます。一刻も早く日常に戻ることを願っています。

揺れを感じてすぐ、NHKのテレビをつけると切迫したアナウンサーの声。

避難を呼びかける鬼気迫る声は、ひとりでも多くの命を救いたいという心の叫びでした。

さらに翌日衝撃に追い打ちをかけたのが、被災地に支援物資を運ぼうとした海上保安庁の航空機とJAL航空機が衝突するという羽田空港の事故。海上保安庁の機体に搭乗していた6人のうち5人が死亡したもののJAL便の乗客、乗員を合わせた379人は全員無事脱出。その後、集英社オンラインのネットニュースに掲載されたJAL便に搭乗していた大学生の話が心を打ちました。

煙が充満し命の危機を感じるギリギリの現場の状況下で、避難路を若い人に譲る高齢者夫婦や助け合う乗客、そして乗務員の方々の素晴らしい対応があったと伝えてくれたからです。

聖書に「**一粒の麦が、地に落ちて死ねば、多くの実を結ぶ**」とあります。

「一粒の麦の死」とは、自分のわがままを抑えて他人の喜びとなる生き方をすること。

自己中心的な自分との絶え間ない戦いを経て、多くの実りを得るとのことかと解釈しています。

航空機の衝突事故の際も、乗客が自分の手荷物を持つことにこだわったり、あるいは我れ先という行動をとったりしていれば、もっともっと大きな被害になったのではないのでしょうか。

CAさんの冷静な対応が称賛されていますが、本人たちも怖かったであろうことは想像に難くありません。

前述の大学生はトラウマになってもおかしくない事故なのに、今後もJALに乗りたいと語っています。

「**うばい合えば足らぬ。わけ合えばあまる。**」とは、相田みつをさんの言葉です。

どんな仕事も尊いことに違いありません。でも、そんなCAさんの仕事や報道アナウンサーの仕事、それに介護や看護や保育の仕事等など、献身的に「与える」ことを生業としている方を僕は尊敬しています。中には仕事と割り切っている方もいるでしょうが、それが性分である方が殆どではないかという気がしています。そんな方々がいらっしゃるおかげでその周りの人は生きていける。

だから、そんな人やチームが報われる「**与える人が与えられる**」(旧約聖書)世の中であってほしいと思います。

会社は、人の集まり。多様化の時代なので、これから益々いろんな価値観や考え方を持つ人が集まってくることは必然です。でも仕事はチームです。もの。「〇〇してくれない」と言う、いわゆる「**くれない族**」より、お互いの考え方と仕事を理解し「与える人」を増やす職場づくりを考えなければなりません。

先日、会社員時代の同期の娘さんがドイツのピアノ留学から帰国してのピアノリサイタルを開催するというので当時の同僚らと行ってきました。それは魂のこもった感動的な演奏。ふと客先の前の方を見ると、熱心に見入るように聴いている小学生がいました。なるほどピアニストも感動を「与える」という仕事です。僕には想像できない芸術の分野。大変な仕事でしょうが、頑張ってもらいたいと願わずにはおれません。

それにしても、うちの娘も子どもの頃ピアノを習っていたはずなんですよ。σ(^_^;)

どこでこんな違いになったのかしらん。(>_<)

でも、仕事は違って娘も何かしら周りに「与える人」であってほしいと思います。

そういやJALの新社長に、CA出身の女性が初めて就任することが発表されましたね。

みんな、みんな頑張れ！ (^o^)/

娘が小1の頃、こんなこと言ってピアノ辞めたという実話なのです

目は4つも
ないんだから
ピアノ無理!

クチは
多いん
だけどね